淡貝が死んでいました。まだ死後3日乃至10日位で、肉が腐敗せずに残っているものが多かった。静かな日より続きなのに。

元来、酸素量の少ない湖底に住んでいるアミが水面に浮き上ったり、貝類、ゴロなどが死んでいるのを見ると湖底はもう既に無酸素状態に近いのではないかと心配されました。このぶんで日照りが続くと、今年の夏はイケスの鯉は全滅する危険をさえ感じます。

◇もう一つの心配

次にもう一つ心配されることは、この霞ケ浦の砂浜らしい砂浜……天王崎もあと2、3年後には、マコモとカバの林ができそうだと云うことです。水郷汽船桟橋附近には、ヒルムシロとエビモが繁殖し出しているのが見られます。これは、名勝天王崎がヘドロ化して来た証拠です。

◇夢の浮島も今は

次に、浮島。かつて夢の浮島と云われた、あのすばらしい水泳場も、遊泳禁止。今は水泳場がどこにあったのかさえさだかでありません。約二〇〇米位、砂浜といえばいえる程度の所がありますが、遠浅ではなく、かつ一面に藻が繁殖して、泳げるどころか、足をとられて歩くことさえ困難です。

霞ケ浦が、マコモとカバとヨシと雑草の繁ったヘドロの沼になりつつあると云うことは、どこも、コンクリートによる護岸工事の結果起った現実であるように考えられる。岸にコンクリートの堤ができると、1～2年で砂洲が消え始め、6～7年後には、かつての見事な砂浜にヘドロがたまり、マコモとカバが林を作るのが実情のようです。

◇消えゆく湖畔の砂浜

私が見た湖辺での砂浜というのは、天王崎と浮島だけで、合わせてせいぜい五、六百米。何れもコンクリートの堤防のない所だけ。殊に天王崎では、水郷汽船桟橋の五、六十米下に小さな防波堤がありますが、この小さな小さな防波堤が、この天王崎が、かろうじて砂浜になっている唯一のトリデであることを知りました。胸を打たれる感激です。小さな防波堤よ頑張れと、思わず声援を送りたくなります。

浮島や馬渡、大山にも死魚は数多く見られ、あの大きなレンギョやソウギョ、コノシロなども、波打際に何匹も打ち上げられていました。

浮島は上陸して見ますと、僅かではあるが砂浜がありながら、甚だしい悪臭が鼻をつく。思わず鼻の頭をこする有様。何のための悪臭か明らかでない。これから調べ